

スマートホーム革命 Matter

近年、急速に市場規模が拡大しているスマートホーム。家電やセキュリティシステムなどを遠隔で管理でき人々の生活の快適性や効率性の向上を図ることができますが、スマートホーム機器同士の互換性の欠如が課題となっていました。2022年10月に発表されたスマートホームの為の共通規格「Matter」はこの課題を払拭する革命的な存在です。

本ウェビナでは100名を超える方々にご参加いただき、スマートホームの概要や市場規模、「Matter」の必要性と導入までの基礎知識を解説いたしました。

スマートホームの利点と課題

IoTやAIなどを活用して、家電や住設機器を自動化、遠隔操作する事で人々に利便性を与える住宅をスマートホームといいます。スマートホーム化により、ユーザーは外出先から遠隔でエアコンや照明の操作ができ、ペットや高齢者の見守りにも活用することができます。

また、スマートフォンやAIスマートスピーカーを使用して、機器毎のリモコンを一つに集約して音声操作をすることで、生活をより豊かにしてくれます。

一方で、各スマートホーム機器メーカーはそれぞれのプラットフォームによる困り込みをする等、機器同士の互換性、運用面が課題となっていました。メーカー毎に通信規格やプロトコルが異なることで機器同士の連携ができないことにユーザーは使いづらさを感じるようになります。

Matter ってなに？

「Matter」は2022年10月に発表されたスマートホームのための共通規格です。規格策定はアメリカの大手IT企業をはじめとする280社以上が参加している無線通信規格標準化団体（CSA）が行っており、発表されてから1年でMatter1.2までアップデートが進み、対応するアプリケーションが増えて続けています。ウェビナではMatterのプロトコルやネットワークの構成等の基礎知識を解説するとともに、実際に自社製品をMatter対応する場合の認証等、必要情報を紹介しました。

ルネサスエレクトロニクスのMatter用SDKサンプルやMatter対応Wi-Fiセンサソリューションを使うことで、ユーザーは容易にMatterをお試しいただけます。

ご興味のある方は、弊社までお問い合わせ下さい。

■ 本日の登壇者 ■



株式会社リョサン
デバイス第一ビジネスユニット
技術支援部

高橋 慶



スマートホームの利点 具体例



Matterプロトコル

[他記事、ウェビナ情報はこちら](#)



エンジニアによりそうマガジンサイト